

## 農業農村工学サマーセミナー2019 報告

### Report of Summer Seminar 2019 Supported by JSIDRE

○大山幸輝\*, 浅田洋平\*\*, 松田壮颯\*\*\*, 鈴木友志\*\*\*, 辰野宇大\*\*, 加藤 諭\*

○OYAMA Koki, ASADA Yohei, MATSUDA Soken, SUZUKI Yushi, TATSUNO Takahiro and KATO Satoshi

#### 1. はじめに

サマーセミナーとは、農業農村工学会（以後、当学会）大会講演会終了後に全国複数の大学・研究機関から学生や若手研究者が集まり、農業農村工学（旧農業土木）に関わるテーマについて様々な角度から議論したり、お互いの研究活動について情報交換したりすることで人的ネットワークを形成することを目的とした、学生による自主的な研修企画のことである。発端となったのは、1992年に発足した当学会のシュタデント委員会の先生方や学会事務局の方々の働きかけにより、他大学の学生同士の交流が活発となり、農業農村工学という同じ学問を学ぶ学生同士が議論できる場を求める声が高まったことにある<sup>1)</sup>。本企画は1996年以降ほぼ毎年、継続的に実施されており、記念すべき第20回目を新元号「令和」で迎えた昨年のサマーセミナー2019では、『農業農村工学が令和で切り開く未来～話と輪をつなぐ若手交流～』をメインテーマとした。本報では、その活動内容について報告する。

#### 2. 2019年の活動報告

##### 2.1 サマーセミナーの全体概要

サマーセミナー2019は9月6日（金）～9月8日（日）の期間に東京大学弥生キャンパス及び国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に行われた。全国の5つの大学から大学生3名、大学院生8名、さらに博士研究員、若手社会人4名の計15名が集まり、3日間に渡って設定したテーマに対するディスカッション及び懇親会等を通して交流を深めた。具体的な活動スケジュールは、初日にアイスブレイク、2日目にディスカッション及び懇親会、3日目にレクリエーション（ビール記念館見学）であった。

昨年のセミナーでは、例年のセミナーとは異なり『NN分野の魅力再発見！～私たちにできること～』という1つのディスカッションテーマに絞って、1班5人の3グループに分かれて議論を行った。これは、全く異なるテーマを複数設定したことで、セミナー全体を通して得られる結論が不透明なままとなった2018年の反省を活かした形である。最後に各グループが議論した内容を参加者全員に対して発表し、活発な意見交換を行った（Fig. 1）。



Fig. 1 グループディスカッションの様子  
Scene of group discussion

\*鳥取大学大学院連合農学研究科, The United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University,

\*\*東京大学大学院農学生命科学研究科, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, \*\*\*京都大学大学院農学研究科, Graduate School of Agriculture, Kyoto University

キーワード：農業農村工学, 広報, 若手交流, サマーセミナー

## 2.2 ディスカッション（NN分野の魅力再発見！～私たちにできること～）の内容

農業農村工学分野（以下、NN分野）の更なる発展には多様な研究、人材の育成や獲得が必要であるが、NN分野を選択する学生が少ないのが現状である。そこで、NN分野の魅力を若い世代に向けて発信することができれば現状を打開できる可能性はあるが、その前にすでに NN 分野に身を置く我々の世代が自身の研究分野の魅力を改めて理解しておくことも必要と考えられる。そこで、本テーマでは各々が行っている研究や取り組みをベースに具体性のある NN 分野の魅力、価値観についてディスカッションを行い、NN 分野の魅力について全員が積極的に語れるようになることを目的とした。

ディスカッションの流れは **Table 1** に示すとおりである。セクション 1 では、参加者全員が自身の研究の内容や魅力を語り、その後研究テーマが近い人同士でグループを作り、セクション 2 において NN 分野の魅力について考えた。たとえば、「利水、営農、インフラなどの分野において常に人類の発展に貢献してきた、なくてはならない存在」、「基礎研究の積み重ねが実際の現場に役に立つ面白さ」、「現場の現象がシンプルな物理モデルや数値モデルでシミュレーションできる便利さ、しかし理論上の最適解が現場の最適解ではないという難しさ」、「同種の課題であったとしても現場が違えばアプローチも異なり、常に新規性に富んでいる」など大学生、社会人、研究者の立場において独特の視点からの魅力が数多く挙げられた。また、魅力を伝える手段についても様々な意見が挙げられ、特に企画セッションでグループワークなどを行うことができれば、距離感が近く若手同士の交流も深めながら実のある議論ができ、若手会との連携もしやすくなるとの結論を得た。そのため、2020 年度の当学会の大会講演会中には、企画セッションにおいて若手会員を対象にミニセミナー体験の実施を予定している。

**Table 1** ディスカッションの流れ  
Discussion flow

セクション	ディスカッションの行程
1 (2h)	参加者自身の研究テーマの紹介（全体）
2 (1.5h)	研究テーマを基にした NN 分野の魅力の創出（グループワーク開始）
3 (1h)	各グループとの意見交換
4 (1h)	発表に向けたポスターの作成
5 (0.5h)	発表

## 3. サマーセミナーの感想

サマーセミナーは、普段なかなか関わることのできない他機関の同世代の方々と気軽に交流できる貴重な場所であると思う (**Fig. 2**)。自身の研究室で生活・活動しているだけでは、味わえない普段取り扱わないテーマに対する議論に対する真剣な気持ちや和気あいあいと親睦を深める時間のバランスの良さがこの会の魅力と考えている。今後も、この会が若手の人的ネットワーク形成の場として途切れることの無いように継続されることを願う。



**Fig. 2** 懇親会の様子  
Scene of get-together

謝辞：農業農村工学会事務局の方々、北海道大山本先生、大阪府大中桐先生、参加者の皆様には、サマーセミナー開催にあたりご協力頂いた。記して感謝申し上げます。

引用文献：中桐（2015）H27 年度農業農村工学会大会講演会要旨集，54-55